

REX-PCI60R

RS232C Serial Communication Board

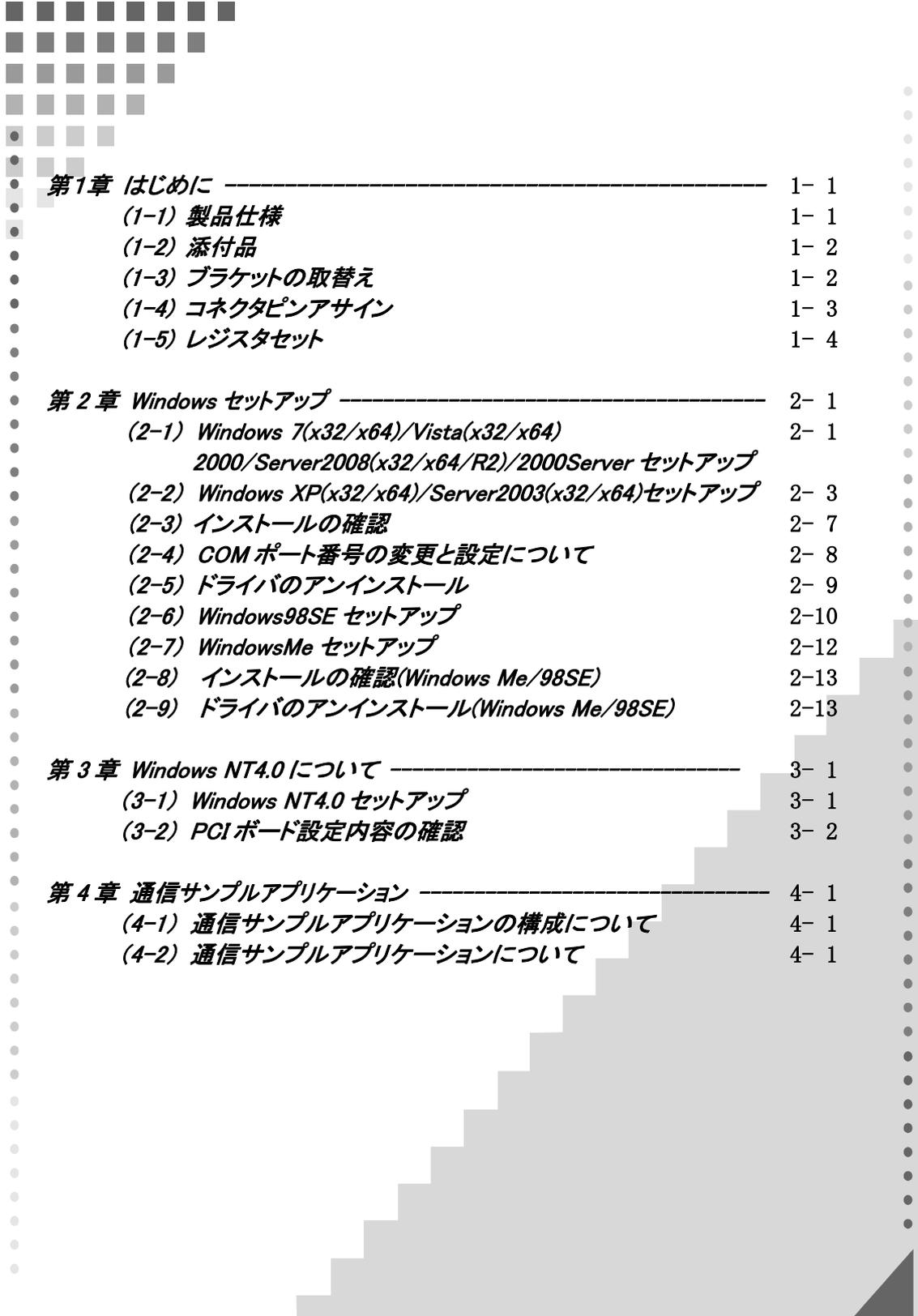
ユーザーズマニュアル

2010年6月

第2.0版



ラトックシステム株式会社



第1章 はじめに -----	1- 1
(1-1) 製品仕様	1- 1
(1-2) 添付品	1- 2
(1-3) プラケットの取替え	1- 2
(1-4) コネクタピンアサイン	1- 3
(1-5) レジスタセット	1- 4
第2章 Windows セットアップ -----	2- 1
(2-1) Windows 7(x32/x64)/Vista(x32/x64) 2000/Server2008(x32/x64/R2)/2000Server セットアップ	2- 1
(2-2) Windows XP(x32/x64)/Server2003(x32/x64)セットアップ	2- 3
(2-3) インストールの確認	2- 7
(2-4) COM ポート番号の変更と設定について	2- 8
(2-5) ドライバのアンインストール	2- 9
(2-6) Windows98SE セットアップ	2-10
(2-7) WindowsMe セットアップ	2-12
(2-8) インストールの確認(Windows Me/98SE)	2-13
(2-9) ドライバのアンインストール(Windows Me/98SE)	2-13
第3章 Windows NT4.0 について -----	3- 1
(3-1) Windows NT4.0 セットアップ	3- 1
(3-2) PCI ボード設定内容の確認	3- 2
第4章 通信サンプルアプリケーション -----	4- 1
(4-1) 通信サンプルアプリケーションの構成について	4- 1
(4-2) 通信サンプルアプリケーションについて	4- 1

安全にご使用いただくために

本製品は安全に充分配慮して設計を行っていますが、誤った使い方をすると火災や感電などの事故につながり大変危険です。ご使用の際は、警告/注意事項を必ず守ってください。

表示について

この取扱説明書は、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、火災や感電などにより、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、感電やその他の事故により、人が負傷または物的損害が発生する可能性がある内容を示しています。



警告

- 製品の分解や改造などは、絶対に行わないでください。
- 無理に曲げる、落とす、傷つける、上に重い物を載せることは行わないでください。
- 製品が水・薬品・油などの液体によって濡れた場合、ショートによる火災や感電の恐れがあるため使用しないでください。



注意

- 本製品は電子機器ですので、静電気を与えないでください。
- ラジオやテレビ、オーディオ機器の近く、モーターなどのノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがあります。必ず離してご使用ください。
- 高温多湿の場所、温度差の激しい場所、チリやほこりの多い場所、振動や衝撃の加わる場所、スピーカなどの磁気を帯びた物の近くで保管しないでください。
- 煙が出たり異臭がする場合は、直ちにパソコンや周辺機器の電源を切り、電源ケーブルもコンセントから抜いてください。
- 本製品は、医療機器、原子力機器、航空宇宙機器、輸送機器など人命に関わる設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器での使用は意図されておりません。これらの設備、機器制御システムに本製品を使用し、本製品の故障により人身事故/火災事故/その他の障害が発生した場合、いかなる責任も負いかねます。
- 取り付け時、鋭い部分で手を切らないように、十分注意して作業を行ってください。
- 配線を誤ったことによる損失、逸失利益などが発生した場合でも、いかなる責任も負いかねます。

その他のご注意

- 本書の内容に関して、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容につきましては万全を期して作成しておりますが、万一不審な点や誤りなどお気づきになりましたらご連絡お願い申し上げます。
- 本製品の運用を理由とする損失、逸失利益などの請求につきましては、いかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- 製品改良のため、将来予告なく外観または仕様の一部を変更する場合があります。
- 本製品は日本国内仕様となっており、海外での保守及びサポートは行っておりません。
- 本製品を廃棄するときは地方自治体の条例に従ってください。条例の内容については各地方自治体にお問い合わせください。
- 本製品の保証や修理に関しましては、添付の保証書に内容を明記しております。必ず内容をご確認の上、大切に保管してください。
- “REX”は株式会社リコーが商標権を所有しておりますが、弊社はその使用許諾契約により本商標の使用が認められています。
- Windowsは米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における登録商標です。その他本書に記載されている商品名/社名などは、各社の商標または登録商標です。なお本書では、TM、[®]マークは明記しておりません。

第1章 はじめに

(1-1) 製品仕様

REX-PCI60R は、シリアルコントローラに 16550 互換 UART を搭載し、D-Sub9 ピン(オス)コネクタを 2 ポート採用した RS232C PCI ボードです。

ハードウェア仕様

項目	仕様内容
バスインターフェース	PCI Local Bus Rev2.3 (32 ビットバスマスタ ユニバーサル PCI)
シリアルコントローラ	メモリマップ方式 16550 互換 UART
接続コネクタ	D-Sub9Pin(オス) × 4
入出力レベル	【ドライバ】 ハイレベル出力 : +5V(min)/+5.4V(TYP) ローレベル出力 : -5V(min)/-5.4V(TYP) 【レシーバ】 電圧レンジ : -15V~+15V
通信方式	非同期通信
通信速度	300/600/1200/2400/4800/9600/19200/38400/ 57600/115200/230400/460800/921600 bps ※実際に実行可能な最大通信速度はパソコンの仕様に依存します。
通信パラメータ	ビット長 : 7/8 スタートビット : 1 ストップビット : 1/2 パリティ : 偶数/奇数/なし
ドライバ・レシーバ	MAX3245ECAI+ / ICL3245ECAZ (または相当品)
伝送距離	15m 以内
割り込み番号	PCI 割り込みを自動割り当て
外形寸法	120mm(W) × 54(H) [mm] (PCI ブラケット含まず)
重量	65g (標準 PCI ブラケットを含む)
電源電圧	+3.3V または 5V (PCI バスより供給)
動作環境	温度 : 0~55℃ 湿度 : 20~80% (ただし結露しないこと)

D-Sub コネクタの 9 番ピンから電源 (5V) を出力できる製品の受注生産が可能です。詳しくは、サポートセンターまでお問い合わせください。

ソフトウェア仕様

項目	仕様内容
通信サンプルプログラム	RS-232C 通信サンプルプログラム (VC++2005, VB2005, VC++6.0, VB6.0)
シリアル通信ドライバ	REX-PCI60R 用デバイスドライバ

本製品の制限事項

本製品の IO アドレスは、OADG ハードウェア仕様で定められた IO ベースアドレスとは別のメモリアドレスにマップされますので、直接 IO ポートアドレスにアクセスしているアプリケーションはご使用になれません。

(1-2) 添付品

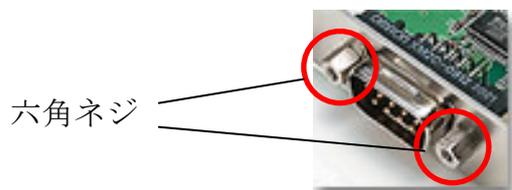
ご使用前に下記添付品が添付されているかをご確認願います。

- RS-232C PCI ボード本体(標準 PCI ブラケット付)
- Low profile PCI ブラケット
- ソフトウェア CD-ROM
- インストールガイド
- 保証書

(1-3) PCI ブラケットの取替え

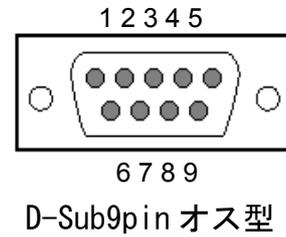
ロープロファイル PCI スロットでご使用の場合は、ブラケットの取替えが必要となります。

PCI ボード上の六角ネジを取外してブラケットを取替えます。



(1-4) コネクタピンアサイン

各信号のコネクタピンアサイン及び機能は下表のようになります。コネクタは OADG 仕様で定められている D-Sub9pin を採用しました。



ピン番	信号名	略称	DTE-外部	説明
1	Data Carrier Detect (DCD)	キャリア検出	←	キャリア検出の通知
2	Receive Data (RD)	受信データ	←	データの受信
3	Transmit Data (TD)	送信データ	⇒	データの送信
4	Data Terminal Ready (DTR)	受信準備	⇒	使用可能であることを通知
5	Signal Ground (SG)	信号用接地	-	グラウンド
6	Data Set Ready (DSR)	送信準備	←	使用可能であることを通知
7	Request to Send (RS)	送信要求	⇒	送信の停止・再開の要求
8	Clear to Send (CS)	送信許可	←	受信の停止・再開の通知
9	Ring Indicate (RI)	被呼表示	←	着信の通知

Ⓐ D-SUB25PIN への変換について Ⓐ

製品添付ケーブルは D-SUB9PIN コネクタですので D-SUB25PIN に変換したい場合には、下記の変換表に基づいた変換コネクタをご使用ください。

変換コネクタは、一般の量販店やパソコンショップで入手可能です。

D-SUB9PIN		D-SUB25PIN	
ピン番号		ピン番号	
1	←→	8	
2	←→	3	
3	←→	2	
4	←→	20	
5	←→	7	
6	←→	6	
7	←→	4	
8	←→	5	
9	←→	22	

(1-5) レジスタセット

シリアルコントローラはメモリマップ方式16C550互換UARTが搭載されています。

詳細につきましては、EXAR XR17D152のデータシートをご参照ください。

TABLE 11: UART CHANNEL CONFIGURATION REGISTERS DESCRIPTION. SHADED BITS ARE ENABLED BY EFR BIT-4.

ADDRESS A3-A0	REG NAME	READ/ WRITE	BIT-7	BIT-6	BIT-5	BIT-4	BIT-3	BIT-2	BIT-1	BIT-0	COMMENT
0 0 0 0	RHR	R	Bit-7	Bit-6	Bit-5	Bit-4	Bit-3	Bit-2	Bit-1	Bit-0	LCR[7]=0
0 0 0 0	THR	W	Bit-7	Bit-6	Bit-5	Bit-4	Bit-3	Bit-2	Bit-1	Bit-0	LCR[7]=0
0 0 0 0	DLL	R/W	Bit-7	Bit-6	Bit-5	Bit-4	Bit-3	Bit-2	Bit-1	Bit-0	LCR[7]=1
0 0 0 1	DLM	R/W	Bit-7	Bit-6	Bit-5	Bit-4	Bit-3	Bit-2	Bit-1	Bit-0	LCR[7]=1
0 0 0 1	IER	R/W	0/ CTS/ DSR# Int. Enable	0/ RTS/ DTR# Int. Enable	0/ Xon/Xoff/ Sp. Char. Int. Enable	0	Modem Status Int. Enable	RX Line Status Int. Enable	TX Empty Int. Enable	RX Data Int. Enable	
0 0 1 0	ISR	R	FIFOs Enable	FIFOs Enable	0/ Delta- Flow Cntl	0/ Xoff/special char	INT Source Bit-3	INT Source Bit-2	INT Source Bit-1	INT Source Bit-0	
0 0 1 0	FCR	W	RXFIFO Trigger	RXFIFO Trigger	0/ TXFIFO Trigger	0/ TXFIFO Trigger	DMA Mode	TX FIFO Reset	RX FIFO Reset	FIFOs Enable	
0 0 1 1	LCR	R/W	Divisor Enable	Set TX Break	Set Parity	Even Par- ity	Parity Enable	Stop Bits	Word Length Bit-1	Word Length Bit-0	
0 1 0 0	MCR	R/W	0/ BRG Prescaler	0/ IR Enable	0/ XonAny	Internal Lopback Enable	(OP2) ¹	(OP1) ¹ RTS/DTR Flow Sel	RTS# Pin Control	DTR# Pin Control	
0 1 0 1	LSR	R/W	RX FIFO ERROR	TSR Empty	THR Empty	RX Break	RX Fram- ing Error	RX Parity Error	RX Over- run	RX Data Ready	
0 1 1 0	MSR	R	CD	RI	DSR	CTS	Delta CD#	Delta RI#	Delta DSR#	Delta CTS#	
	MSR	W	RS485 DLY-3	RS485 DLY-2	RS485 DLY-1	RS485 DLY-0	Reserved	Reserved	Reserved	Reserved	
0 1 1 1	SPR	R/W	Bit-7	Bit-6	Bit-5	Bit-4	Bit-3	Bit-2	Bit-1	Bit-0	User Data
1 0 0 0	FCTR	R/W	TRG Table Bit-1	TRG Table Bit-0	Auto RS485 Enable	Invert IR RX Input	RTS/DTR Hyst Bit-3	RTS/DTR Hyst Bit-2	RTS/DTR Hyst Bit-1	RTS/DTR Hyst Bit-0	
1 0 0 1	EFR	R/W	Auto CTS/DSR Enable	Auto RTS/DTR Enable	Special Char Select	Enable IER [7:5], ISR [5:4], FCR[5:4], MCR[7:5,2], MSR[7:4]	Software Flow Cntl Bit-3	Software Flow Cntl Bit-2	Software Flow Cntl Bit-1	Software Flow Cntl Bit-0	
1 0 1 0	TXCNT	R	Bit-7	Bit-6	Bit-5	Bit-4	Bit-3	Bit-2	Bit-1	Bit-0	
1 0 1 0	TXTRG	W	Bit-7	Bit-6	Bit-5	Bit-4	Bit-3	Bit-2	Bit-1	Bit-0	
1 0 1 1	RXCNT	R	Bit-7	Bit-6	Bit-5	Bit-4	Bit-3	Bit-2	Bit-1	Bit-0	
1 0 1 1	RXTRG	W	Bit-7	Bit-6	Bit-5	Bit-4	Bit-3	Bit-2	Bit-1	Bit-0	

第2章 Windowsセットアップ

(2-1) Windows 7 (x32/x64) / Vista (x32/x64) / 2000

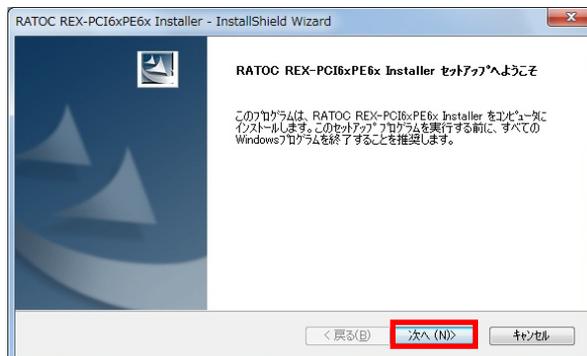
Server2008 (x32/x64/R2) / 2000Server セットアップ

PCI ボードを接続する前に製品添付 CD-ROM 内のドライバをセットアップします。以下の手順でインストールを行ってください。

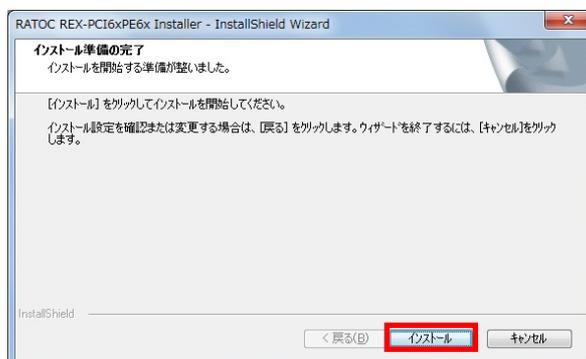
製品添付 CD-ROM 内の
PCIPE6x_Setup.exe をダブルクリックして実行します。
ユーザーアカウント制御の画面が表示された場合は、「はい(Y)」ボタンをクリックします。



「RATOX REX-PCI6xPE6x
Installer セットアップへようこそ」
の画面で「次へ(N)」ボタンをクリックします。



「インストール準備の完了」の画面
で「インストール」ボタンをクリック
します。



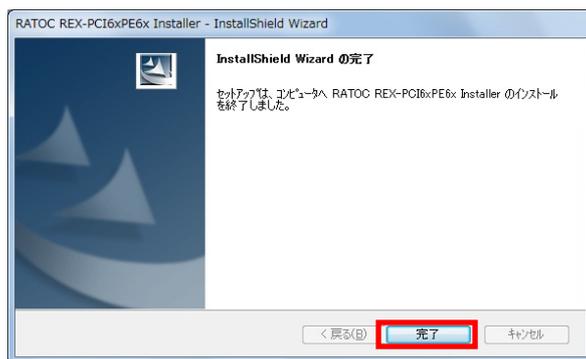
Windows セキュリティの確認画面が3回表示されますので、「インストール」ボタンをクリックします。

(※ Windows 2000/2000Server ではこれらの画面は表示されません。)



以上でドライバのセットアップは完了です。

PC の電源を切り PCI ボードを装着してください。



PC を起動後はセットアップしたドライバが自動的にインストールされます。

「(2-3) インストールの確認」へ進み、正常にインストールされていることを確認してください。

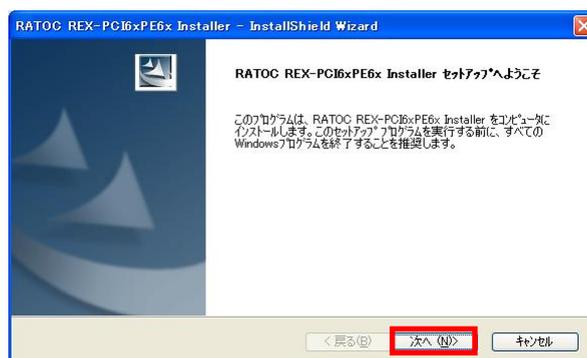
(2-2) Windows XP (x32/x64) / Server2003 (x32/x64) セットアップ

PCI ボードを接続する前に製品添付 CD-ROM 内のドライバをセットアップします。以下の手順でインストールを行ってください。

< ドライバのセットアップ >

「RATOC REX-PCI6xPE6x

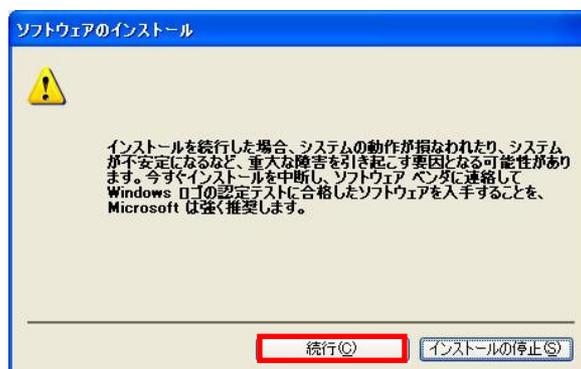
Installer セットアップへようこそ」の画面で「次へ(N)」ボタンをクリックします。

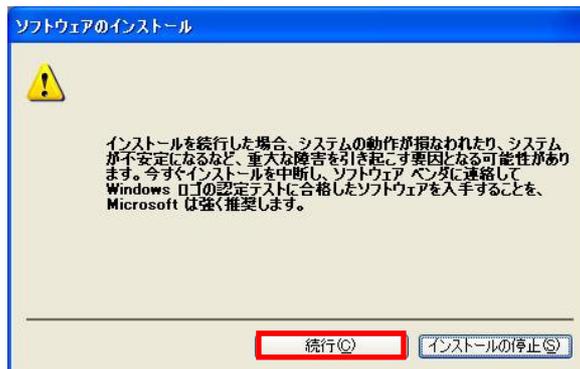


「インストール準備の完了」の画面で「インストール」ボタンをクリックします。



警告画面が 2 回表示されますが「続行(C)」ボタンをクリックします。





以上でドライバのセットアップは完了です。

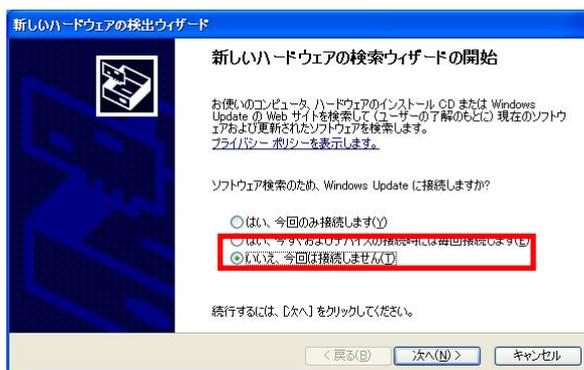
PC の電源を切り PCI ボードを装着してください。



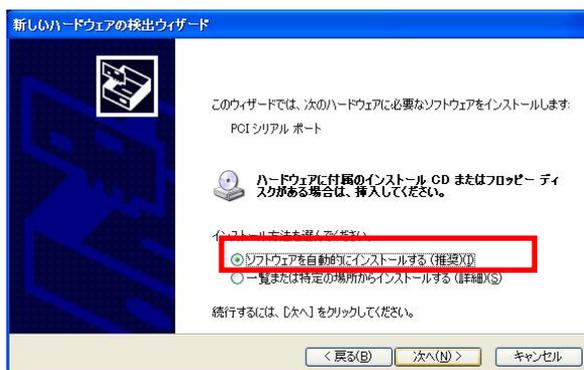
PC を起動後は以下の手順にてインストールを行います。

< REX-PCI60R Dual Port Serial PCI Board のインストール >

「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」で、「いいえ、今回は接続しません」を選択し「次へ(N)」ボタンをクリックします。



「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)(I)」が選択されていることを確認し「次へ(N)」ボタンをクリックします。



「ロゴテストに合格していません」と表示されますが、「**続行(C)**」ボタンをクリックします。



以上で REX-PCI60R Dual Port Serial PCI Board のインストールは完了です。

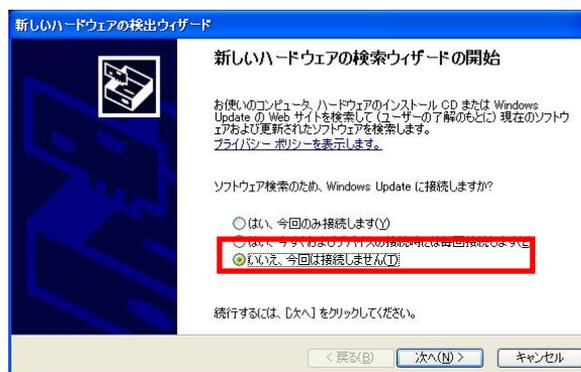
次に

「REX-PCI60R Communications Port」のインストールウィザードが自動的に起動します。

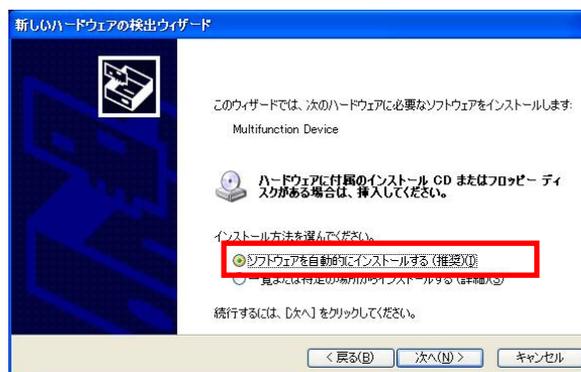


<REX-PCI60R Communications Port のインストール>

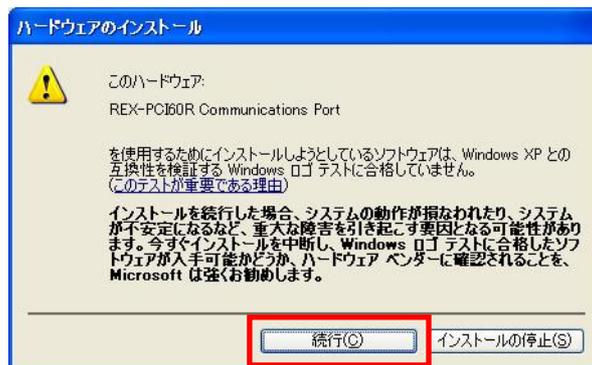
「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」で、「いいえ、今回は接続しません(T)」を選択し「次へ(N)」ボタンをクリックします。



「Multifunction Device」と表示されていることを確認してください。「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)(I)」が選択されていることを確認し「次へ(N)」ボタンをクリックします。



「ロゴテストに合格していません」と表示されますが、「続行(C)」ボタンをクリックします。



ドライバのコピーが開始され、完了のメッセージが表示されます。「完了」ボタンをクリックします。



2 ポート分についてのインストール作業が必要となりますので、同様の手順で行なってください。

以上で REX-PCI60R のインストールは終了です。

「(2-3) インストールの確認」へ進み、正常にインストールされていることを確認してください。

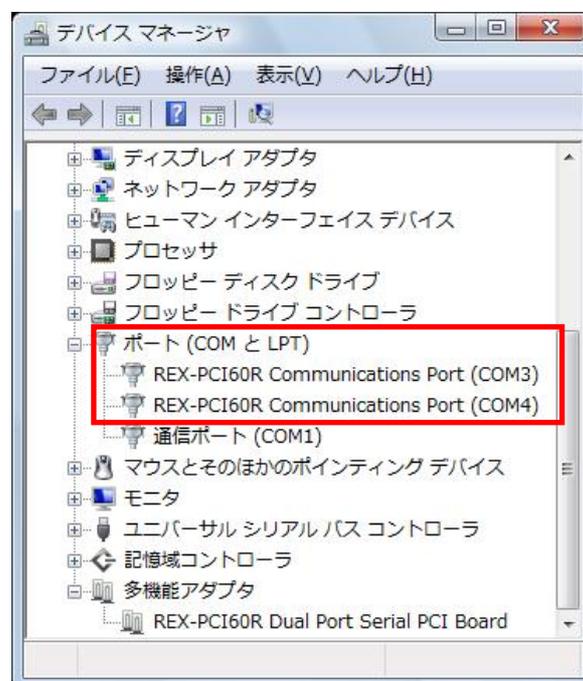
(2-3) インストールの確認

コントロールパネルの「デバイスマネージャ」を起動します。

「ポート(COM と LPT)」をクリックして新しくポートが追加されているのを確認してください。

(※ Windows7/Vista/Server2008 以外の OS では、コントロールパネルのシステムを起動し、

「システムのプロパティ」の「ハードウェア」タブから「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。)



画面では「COM3」「COM4」となっておりますが、ご使用の環境により COMx の x の数字が異なりますのでご注意ください。

(2-4) COM ポート番号の変更と設定について

本製品に割り当てられた COM ポート番号の変更はデバイスマネージャ上より行うことができます。

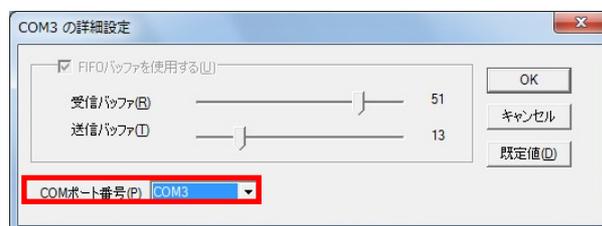
「(2-3) インストールの確認」と同様にポートのプロパティ画面を開き「ポートの設定」タブをクリックします。

「詳細」ボタンをクリックするとポートの詳細設定ダイアログが表示されます。



【ポートのプロパティ画面】

COM ポート番号を変更するには「COM ポート番号」コンボボックスより変更先 COM 番号を選択後に「OK」ボタンをクリックしてください。



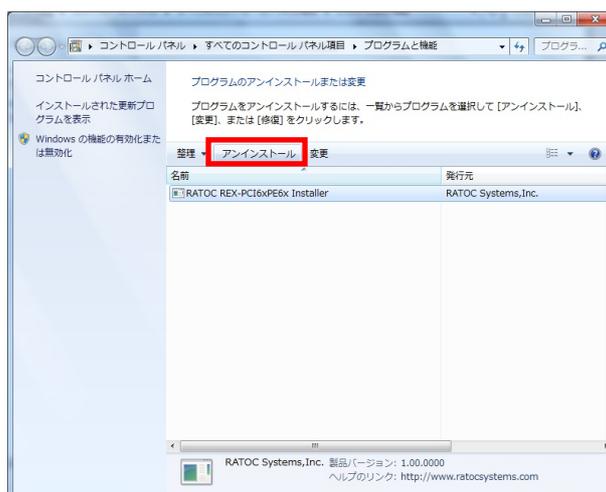
【ポートの詳細設定ダイアログ】

(2-5) ドライバのアンインストール

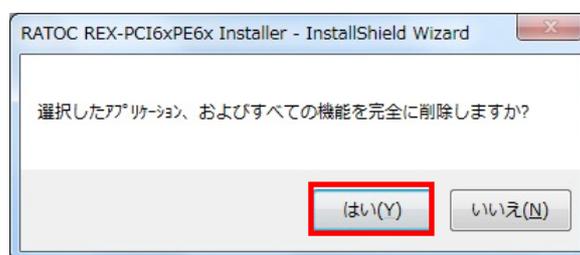
コントロールパネルの「プログラムと機能」を起動し、セットアップされたドライバをアンインストールします。

(Windows XP/2000/Server2003 では「プログラムの追加と削除」を起動します。)

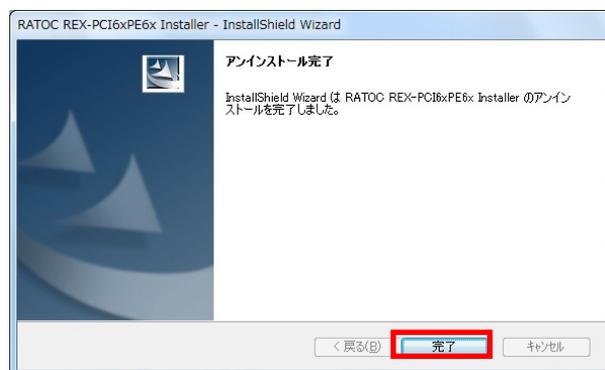
「RATOC REX-PCI6xPE6x Installer」を選択し、「アンインストール」をクリックします。



アンインストールの確認画面が表示されますので「はい(Y)」ボタンをクリックします。



以上で REX-PCI60R のアンインストールは完了です。



(2-6) Windows98SE セットアップ

PCI ボードをPCI スロットに挿入後、PC を起動すると右の「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。「次へ」を押します。



ドライバの検索方法は「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」を押します。



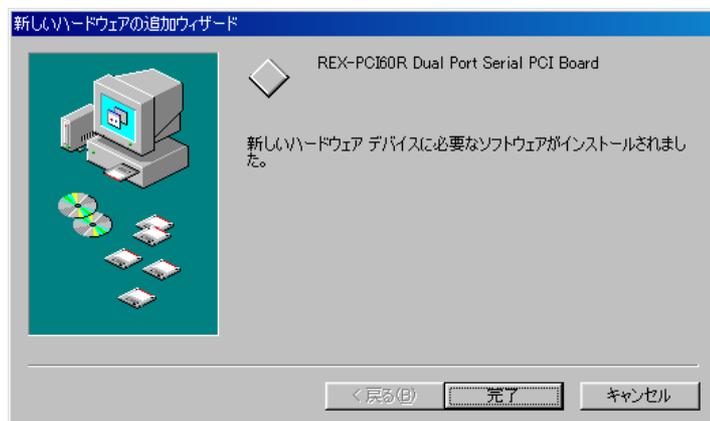
検索する場所に「検索場所の指定(L)」を選択後、添付の CD-ROM を挿入し、「参照(R)」ボタンをクリックしてください。表示されたダイアログで [CD-ROM¥Win9x] フォルダを指定後、「OK」ボタンを押してください。「次へ」を押します。



ドライバのある場所が表示されます。「次へ」を押します。



ドライバのコピーが開始され、完了のメッセージが表示されます。「完了」を押します。



以上で REX-PCI60R のインストールは終了です。

「(2-8) インストールの確認 (Windows Me/98SE)」へ進み、インストールの確認作業を行ってください。

(2-7) WindowsMe セットアップ

PCI ボードを PCI スロットに挿入後、PC を起動すると右の「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

ここでは「適切なドライバを自動的に検索する(推奨)」にチェックを入れ「次へ」を押します。



ドライバのコピーが開始され、完了のメッセージが表示されます。「完了」を押します。



以上で REX-PCI60R のインストールは終了です。

「(2-8) インストールの確認 (Windows Me/98SE)」へ進み、インストールの確認作業を行ってください。

(2-8) インストールの確認(Windows Me/98SE)

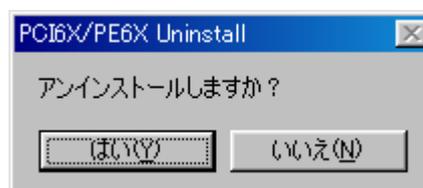
コントロールパネルのシステムを起動し、デバイスマネージャを選択します。ボードの設定が正常に行われていれば、コンピュータのレジストリツリー「ポート(COMとLPT)」の下に「通信ポート(COMx)」が登録されます。

画面では、「COM3」「COM4」となっておりますが、お客様の環境によりCOMxのxの数字が異なりますのでご注意ください。



(2-9) ドライバのアンインストール(Windows Me/98SE)

[Windows 98SE/Me] の場合
(CD-ROM)¥Win9x¥Win9x
にある Uninstall.exe を実行します。



第3章 Windows NT4.0 について

Windows NT4.0 では、添付 CD-ROM からインストーラを起動する必要があります。システムのリソースの空き状況によっては REX-PCI60R を使用できないことがあります。

(3-1) Windows NT4.0 セットアップ

Windows NT4.0 でのインストール方法

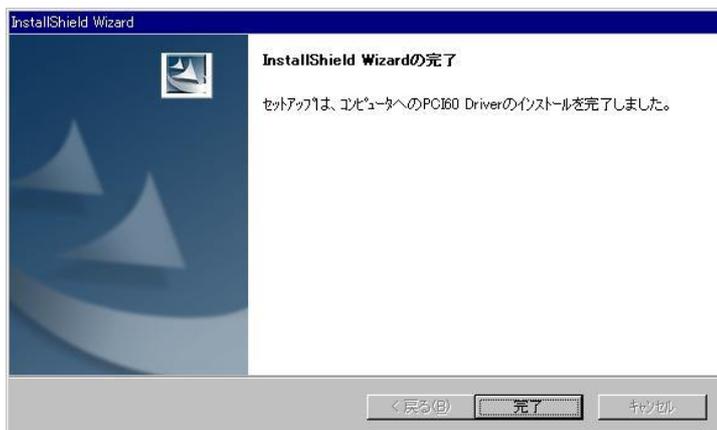
REX-PCI60R を PC に装着する前に、製品添付の CD-ROM を挿入し、[CD-ROM]¥WinNT¥PCI60R¥Installer フォルダからインストーラを起動します。

「次へ」ボタンをクリックします。



「完了」ボタンをクリックします。

PC をシャットダウンし、REX-PCI60R を PC に装着してください。



以上で REX-PCI60R のインストールは完了です。

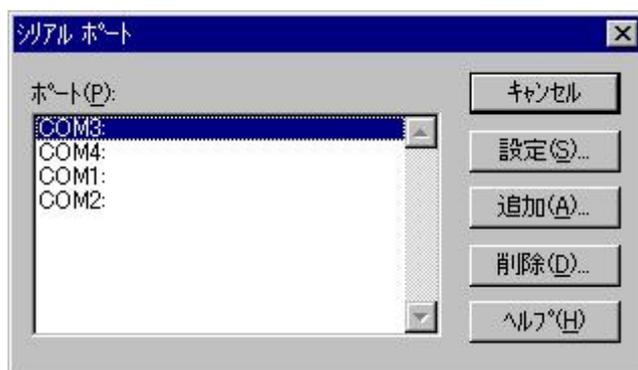
「(3-2) PCI ボード設定内容の確認」へ進み、インストールの確認を行ってください。

(3-2) PCI ボード設定内容の確認

「スタートメニュー」→「設定」→「コントロールパネル」→「シリアルポート」に新しいポートが追加されていることを確認してください。

※ 設定の変更には製品添付 CD-ROM 内のユーティリティを使用します。

([CD-ROM]¥ WinNT¥PCI60R¥UTILITY¥PCI60R_NT_UTIL.EXE)



第4章 通信サンプルアプリケーション

(4-1) 通信サンプルアプリケーションの構成について

製品添付の CD-ROM の[CommSample]フォルダ内の構成は次のようになります。

- VB6 フォルダ・・・VisualBasic6.0 サンプル
- VC6 フォルダ・・・VisualC++6.0 サンプル
- VB2005 フォルダ・・・VisualBasic2005 サンプル
- VC2005 フォルダ・・・VisualC++2005 サンプル

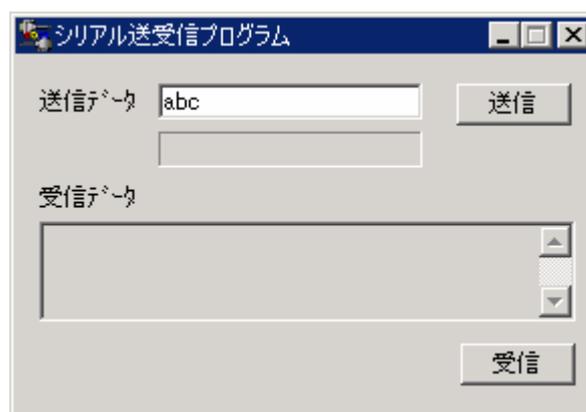
(4-2) 通信サンプルアプリケーションについて

通信サンプルアプリケーションは ASCII 文字列を送受信する簡易プログラムです。

使用するポートを選択します。



入力した ASCII 文字列の送信、および接続先から送信されたデータの受信を行います。



通信サンプルプログラム抜粋(VC)

(Visual Basic についてはサンプルソース内をご参照ください)

```
LRESULT CALLBACK WndProc(HWND hWnd, UINT uMessage, WPARAM wParam, LPARAM lParam)
{
    switch (uMessage)
    {
        case WM_CREATE:
            // COMポートオープン
            hComPort = CreateFile( lpszComName,
                                GENERIC_READ|GENERIC_WRITE,
                                0,
                                NULL,
                                OPEN_EXISTING,
                                FILE_FLAG_OVERLAPPED,
                                NULL);

            if ( hComPort == INVALID_HANDLE_VALUE ) {
                // ハンドルエラー
                ShowError("COM Open Error.");
                return FALSE;
            }
            // DCB 設定
            memset(&dcb, 0, sizeof(dcb));
            dcb.DCBlength = sizeof(dcb);
            dcb.BaudRate = 9600;
            dcb.fBinary = 1;
            dcb.fDtrControl = DTR_CONTROL_ENABLE;
            dcb.fOutxCtsFlow = 1;
            dcb.fRtsControl = DTR_CONTROL_HANDSHAKE;
            dcb.Parity = NOPARITY;
            dcb.StopBits = ONESTOPBIT;
            dcb.ByteSize = 8;
            // 新たに通信パラメータを設定する
            if ( !SetCommState( hComPort, &dcb ) )
                ShowError("Set COM parameter error.");

            break;

        case WM_COMMAND:
            switch (wParam)
            {
                case IDB_TXDATA:
                    // 送信データ取得
                    memset( TxBuf, 0x00, sizeof( TxBuf ) );
                    GetDlgItemText( hWnd, IDE_TXDATA, TxBuf, sizeof(TxBuf) );
                    SetDlgItemText( hWnd, IDS_TXDATA, TxBuf );
                    SetDlgItemText( hWnd, IDE_TXDATA, "" );
                    nToWrite = strlen(TxBuf);
                    // COMポートにデータ送信
                    iRet = WriteFile( hComPort, TxBuf, nToWrite, &dwBytesWrote, &ov);
                    if ( iRet == 0 ) {
                        WaitForSingleObject(ov.hEvent, 1000);
                    }
                    break;
            }
    }
}

/* 次ページに続く */
```

```
        case IDB_RXDATA:
            // 受信スレッドを作成します
            hThread = CreateThread( NULL,
                                   0,
                                   (LPTHREAD_START_ROUTINE) ReadThread,
                                   hWnd,
                                   0,
                                   &ThreadId );

            break;
    }
    break;
case WM_DESTROY:
    if (hThread != NULL) {
        CloseHandle( hThread );
        fReadThread = FALSE;
    }
    PostQuitMessage( 0 );
    break;
default:
    return DefWindowProc( hWnd, uMessage, wParam, lParam );
}return 0;
}

DWORD WINAPI ReadThread( LPVOID lpParameter )
{
    // バイト受信イベントを待つ受信データを取り出し格納
    while( fReadThread ) {
        // イベントを待つ
        WaitCommEvent( hComPort, &dwEvent, &ov );
        if ( WaitForSingleObject( ov.hEvent, INFINITE ) == WAIT_OBJECT_0 ) {
            do {
                memset( RxBuf, 0, sizeof( RxBuf ) );
                if ( !ReadFile( hComPort, RxBuf, sizeof( RxBuf ), &dwBytesRead, &ov ) ) {
                    if ( WinError = GetLastError() == ERROR_IO_PENDING ) {
                        if ( !GetOverlappedResult( hComPort, &ov, &dwBytesRead, TRUE ) ) {
                            ShowError( "GetOverlappedResult failed" );
                            break;
                        }
                    }
                }
            }
            else {
                if ( WinError != ERROR_INVALID_HANDLE ) {
                    ShowError( "ReadFile failed" );
                    break;
                }
            }
        }
        if ( dwBytesRead > 0 ) {
            // 受信データ表示
            RxBuf[ dwBytesRead ] = 0x00;
            SetDlgItemText( hWnd, IDS_RXDATA, RxBuf );
        }
    }while ( dwBytesRead > 0 && fReadThread != FALSE );
}
return 0;
}
```

製品に対するお問い合わせ

REX-PCI60R の技術的なご質問やご相談の窓口を用意していますのでご利用ください。

ラトックシステム株式会社
I&L サポートセンター
〒556-0012
大阪市浪速区敷津東 1-6-14 朝日なんばビル
TEL. 06-6633-6741
FAX. 06-6633-8285
〈サポート受付時間〉
月曜－金曜（祝祭日は除く）AM 10:00 - PM 1:00
PM 2:00 - PM 5:00

また、インターネットのホームページでも受け付けています。

HomePage ⇨ <http://www.ratocsystems.com>



個人情報取り扱いについて

ご連絡いただいた氏名、住所、電話番号、メールアドレス、その他の個人情報は、お客様への回答など本件に関わる業務のみに利用し、他の目的では利用致しません。

🔔 ご注意 🔔

- ☑本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- ☑本書の内容につきましては万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点や誤りなどお気づきになりましたらご連絡願います。
- ☑本製品および本製品添付のマニュアルに記載されている会社名および製品名は、各社の商品または登録商標です。
- ☑運用の結果につきましては、責任を負いかねますので、予めご了承ください。

REX-PCI60R 質問用紙

●下記ユーザ情報をご記入願います。

法人登録 の方のみ	会社名・学校名			
	所属部署			
ご担当者 名				
E-Mail				
住所	〒			
TEL		FAX		
製品型番		シリアルNo.		
ご購入情 報	販売店名		ご購入日	

●下記運用環境情報とお問い合わせ内容をご記入願います。

【パソコン/マザーボードのメーカー名と機種名】
【ご利用のOS】
【接続機器】
【お問合せ内容】
【添付資料】

 個人情報取り扱いについて

ご連絡いただいた氏名、住所、電話番号、メールアドレス、その他の個人情報は、お客様への回答など本件に関わる業務のみに利用し、他の目的では利用致しません。

